

令和8年度 平和教育研修会事業 少年の塔慰霊祭

期日：令和8年9月19日（土）

「少年の塔慰霊祭」は、公益社団法人上伊那教育会の平和教育研修事業として位置づけられています。「上伊那各地より満蒙開拓青少年義勇軍として満州に渡り、再び祖国の地を踏むことのできなかつた青少年の御霊を慰霊し、永遠の平和を祈念する」という趣旨で、毎年行われている、教育会にとって大切な事業です。

慰霊祭に先立って行われた整備作業により整えられた環境の中で厳かに行うことができました。作業にご参加いただいた先生方、ありがとうございました。

今年度の慰霊祭も、一般の方にも参加者を募り、一般参加者8名を含む41名で執り行うことができました。



また、慰霊祭の中で平和教育研修として、元上伊那教育会長の矢澤静二先生より満蒙開拓青少年義勇軍及び少年の塔に関するお話をいただきました。

追悼の言葉

太平洋戦争終結から、八十一年の歳月が過ぎました。王道楽土の理想に燃え、満蒙開拓青少年義勇軍として中国大陆に渡り、志半ばにして荒野に散った九十余名の若い御霊に、謹んで哀悼の誠を捧げます。

「満州は日本の生命線」と言われ、昭和七年に満州国が誕生しました。計り知れない資源と広大で未開の原野を開拓して「王道楽土」を築き、国内の人口・経済問題を解決すると同時に、軍事的にも北の守りを固めようとする国策の一環として計画された満蒙開拓。貴殿達義勇軍もその一翼を担わされたのでした。

国家総動員体制が強化されていく中、上伊那教育会も教師自身率先して大陸に渡り、また上伊那義勇軍父兄会を組織するなど、国策として積極的に取り組み、昭和十二年から終戦までに郡下で五百名を越える義勇軍を送り出しました。そして、昭和二十年八月九日 対日戦線布告したソ連軍が次々に大陸を南下、「王道楽土・五族協和」の夢は一瞬にして消え去り、関東軍の武装解除は極度の大混乱暗澹たる状況の中、貴殿達多くの義勇軍が若き命を落としていくこととなりました。

教えられるままに何の疑問も持たず純心に生き、そして若き命を異境の地に散らせた九十余名の貴殿達。台上に立つ少年の像は胸を張り、遙か遠くの何を見据えているのでしょうか。今、日本や世界の状況に目をやれば、いのちの尊さや平和に対する危機感を抱かざるを得ない出来事も少なくありません。

しかし、私たちは、今ここに頭を垂れ、過ぎ去りし日々を思いを寄せると同時に、戦後八十一年を過ぎてなお、この上伊那教育会の負の遺産を決して風化させることなく、真摯に学び、永久平和への努力を改めて誓います。二度と、同じ過ちは繰り返しません。

九十余名の若き御霊よ、安らかにお眠りください。

令和八年九月十九日

公益社団法人上伊那教育会

会長

佐々木 英明

少年の塔慰霊祭の様子



追悼の言葉
佐々木 英明 会長



矢澤 静二 元会長
による講話



黙祷を捧げる
参列者の皆様



献花の後、参列者全員で
焼香を行いました

